



# 「制作と思考」第4回展<眼と素材>報告

## 40名が出品,出品数はやや減少

3月11日(火)–16日(日) 県立美術館・県民ギャラリーで

広島芸術学会の恒例事業「制作と思考」第4回展は、去る3月11日(火)から16日(日)までの6日間、広島県立美術館(県民ギャラリー)で開催した。今回のテーマは「眼と素材」。今回展には40名40点の出品があった。出品点数は前回展よりやや減少した。展覧会の善し悪しは、出品点数や入場者の多寡だけでは判断できない。それに統計は、いつも右肩上がりが続くものでもない。分かっているのだが、たとえ少しではあっても「減る」というのは、やはりさびしいこと。

今回展では「眼と素材」をテーマに掲げた。しかし率直に言って、多くの作品からはこのテーマの趣旨は感じ取れなかった。(と、私には見えた。)逆説的に言えば、展覧会事務局が「右へならえ!」という大号令を発し、出品者もそれにならぬ会場がテーマ一色に染まることの方がかえって不気味で、見ている方だって薄気味悪い、ということと言える。銘々勝手に出品していることの方が健全だし、見ていて面白くもある。

そうは言いながら、今回展では、テーマの「眼と素材」にぴたりと符合する作品があった。杉谷富代さんの立体造形「あの日」は、被爆廃材を素材にした、「なるほど」と納得させる作品だった。この作品は、会期なかばの3月13日付け中国新聞文化欄に展覧会の出品作品として紹介された。

今回展のテーマ(眼と素材)を設定した側の人間が、それに逆行するような意見でいささか気が引けるのだが、「テーマの設定」のことでちょっと考えてみた。

そもそも「この展覧会にテーマは必要なのだろうか。」という素朴な思いである。いっそのこと、ここで「テーマなし」というのも考えてみてよいのではないかと、思ったのである。

仮に「テーマなし」だと、この展覧会の通年テーマ「制作と思考」の「思考」が止まってしまうだろうか。作者もしくは出品者の側から言うと、作品を作るには、各個思い入れの軽重はあるだろうが、かならず「何かを表現したい」という自分なりの制作意図や意欲があるはずだ。だから「テーマなし」でも十分ではないか、とい

う気がするのである。作者の自由をなにも「テーマ」で束縛することはない。このテーマが議決の際の党議拘束のような作用を果たしているのではないかと、いう危惧である。テーマの設定に当たっては、企画段階の話し合いにより、出品者の制作にできるだけ影響を与えないように心掛けてはいる。党議拘束のような極端な締め付けはないにせよ、展覧会企画者の設定した「テーマ」が出品者の自由意志を發揮できない状態に追い込んでいくことになっているのではないかと、ということなのである。

本来、広島芸術学会のこの企画には、特に主義主張があるわけではない。さまざまな考え方の人々の集合体であるから、美術公募団体などとは根本的に成り立ちが異なる。むしろ、この展覧会は、会員が気楽に出品できる「実験や冒険」の「場」として作用するのが適当なのではないだろうか。かえって「テーマなし」の方が自由な出品をうながすような気がするので、議論の糧にと思い、ちょっと触れてみた。今後の検討課題だと思ふ。

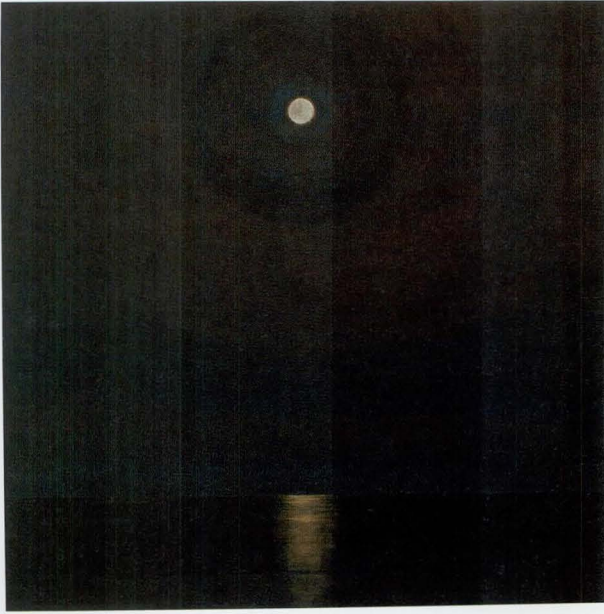
ともあれ、今回展では、墨の表現に面白い作品があった。非文字性の墨にはまだまだ前途に洋々たる可能性があるように思える。また、上記の杉谷さんの作品のほかに、染色作品で井上三津子さんの「滴・砕」などは、素材の扱いと色遣いに洒落なセンスを感じる好印象をのこした。

最後に、些細なことかも知れないが、ちょっとした反省点を一つ記しておこう。

組み立てを要する作品など、繁雑で陳列に時間のかかるものは、会場に搬入してから作業を始めるのではなく、可能な限り搬入前にあらかじめ大まかな準備をしておき、搬入後は簡単な動作で陳列ができるような工夫をしておくくらいの配慮が必要ではないだろうか。今回展の反省点でもあり次回以降への注意事項でもある。

以下に出品全作品の画像を掲載して第4回展の報告とする。(倉橋 満方)

「ひかり」  
青木 優花



平面(絵画)

「異変」  
有田 悦子



平面(絵画)

「イネノエネルギー」  
有富 茉莉



平面(絵画)

「予兆—星降るころに—」  
石下 早苗



立体(染色)



「滴・碎」

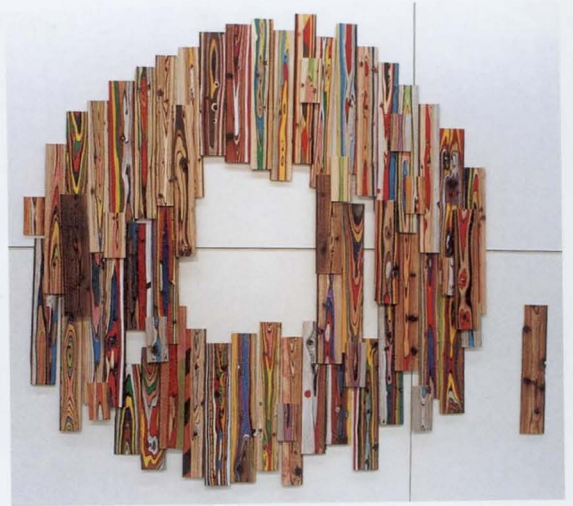
井上 三津子



平面(染色)

「アジアンポートレイト」

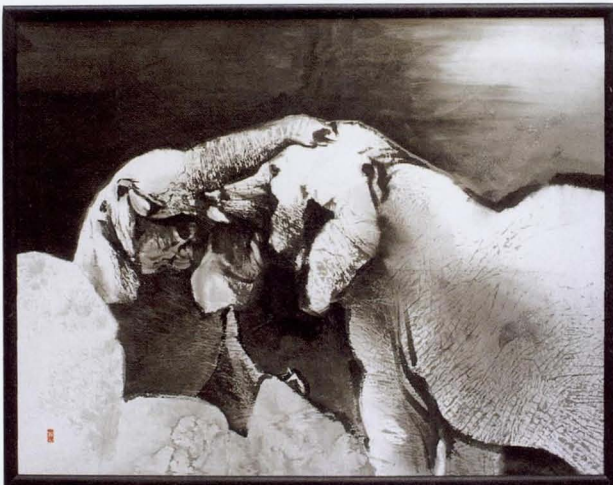
井上 好恵



平面(絵画)

「慈」

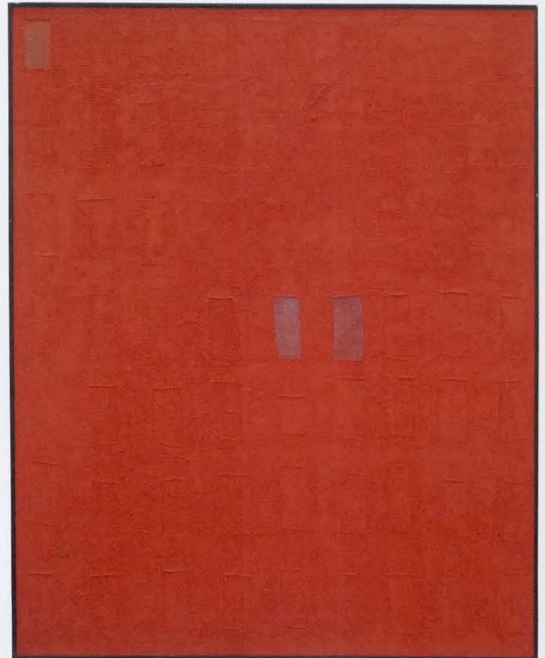
岩井 春嶺



平面(書)

「記録」

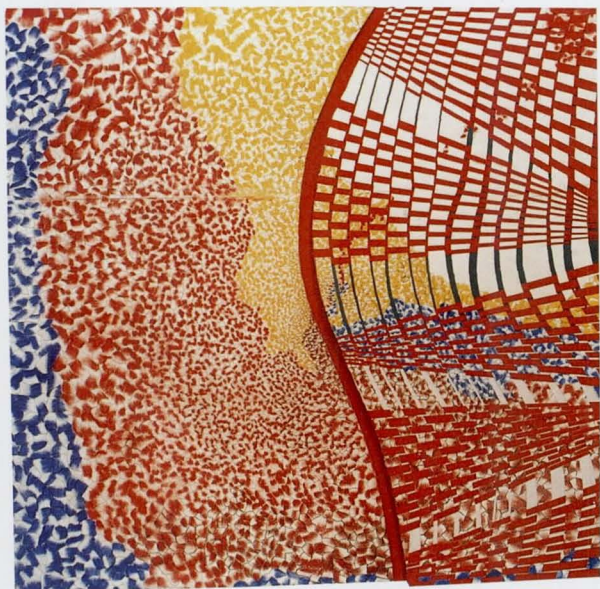
大成 大輔



平面(絵画)

「Hymns Spheres」

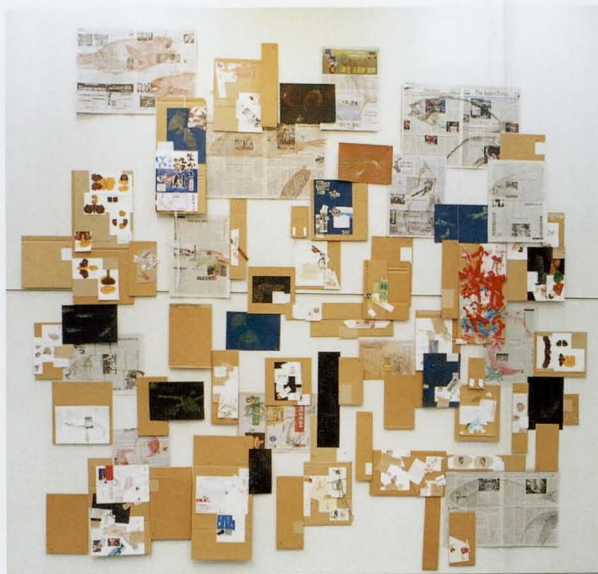
岡田 真理子



平面(絵画)

「憲子の日常」

荻野 憲子



平面(絵画)

「surfacing perspectives」

粕谷 周司



平面(造形)

「June」

加藤 宇章



立体(造形)



「或る日」  
木原 和敏



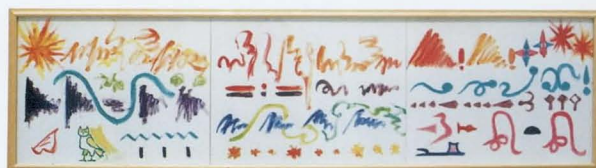
平面(絵画)

「3つの焦点」  
木本 一之



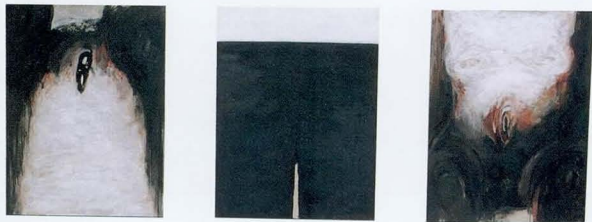
立体

「コンチェルト」  
國安 愛子



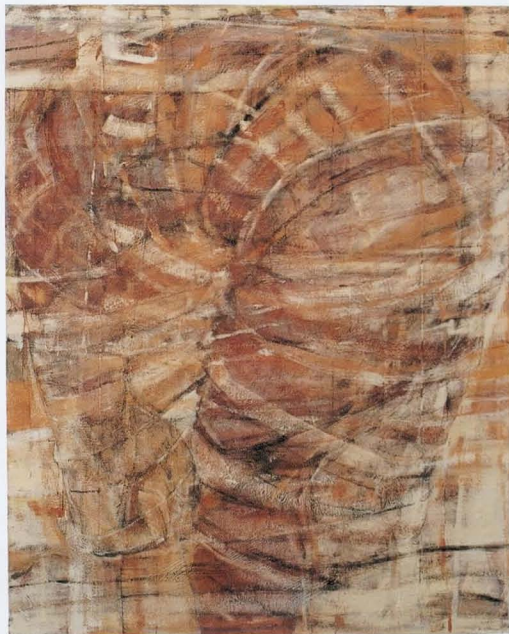
平面(絵画)

「門・大地・空」  
木本 雅典



平面(絵画)

「ぐう」  
越川 道江



平面(絵画)

「埋もれゆくもの」

腰本 悦二



インスタレーション

「黒い弾丸(ブラック キャノン)」

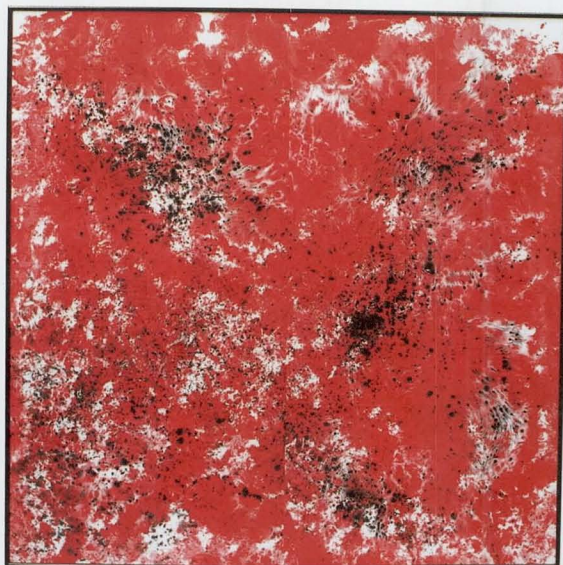
才田 博之



平面(絵画)

「血眼」

椎木 剛



平面(書)

「デタラメナコト(其ノ一)」

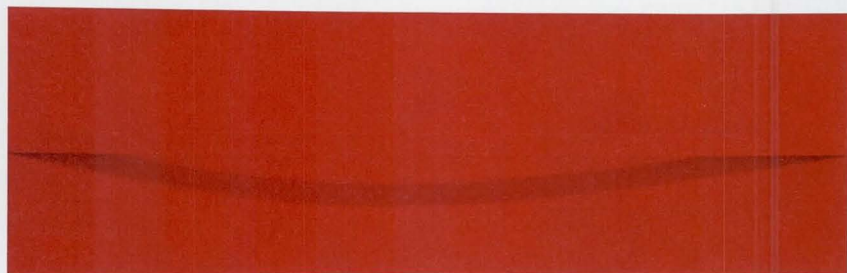
佐野 恵子



平面(絵画)

「composition R-3」

柴田 史

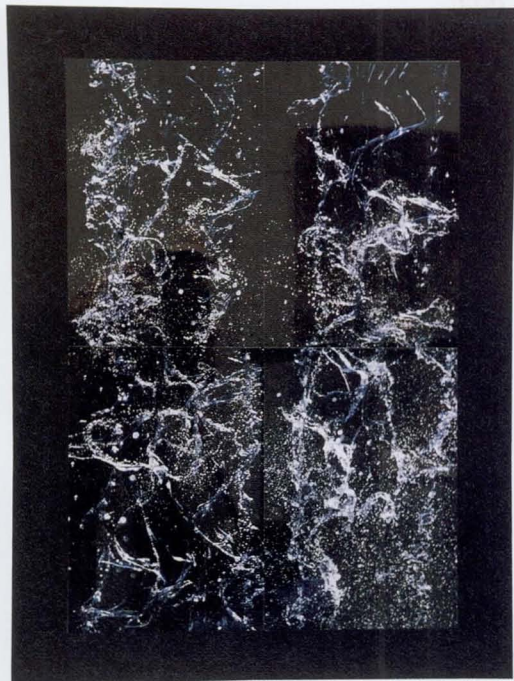


半立体



「Water Carrying(水の彫刻)」

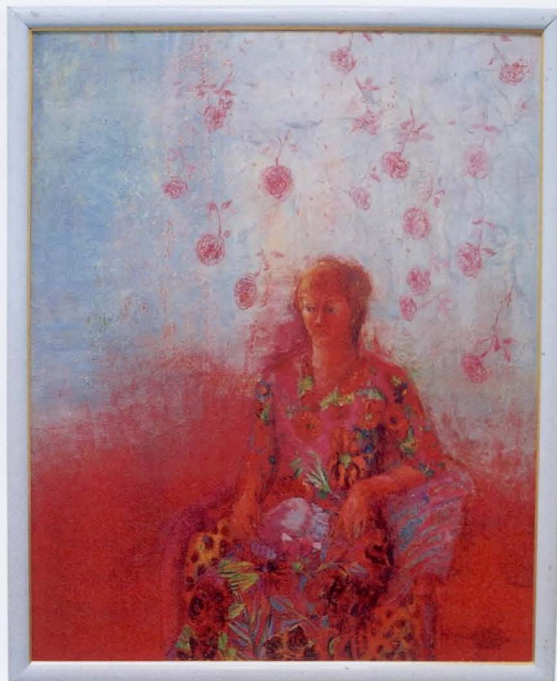
下土井 洋治



平面(写真)

「花柄のコスチューム」

社河内 綾子



平面(絵画)

「殖の幻界」

白井 史朗



平面(絵画)

「あの日」

杉谷 富代



立体(染色)

「くちづけ」

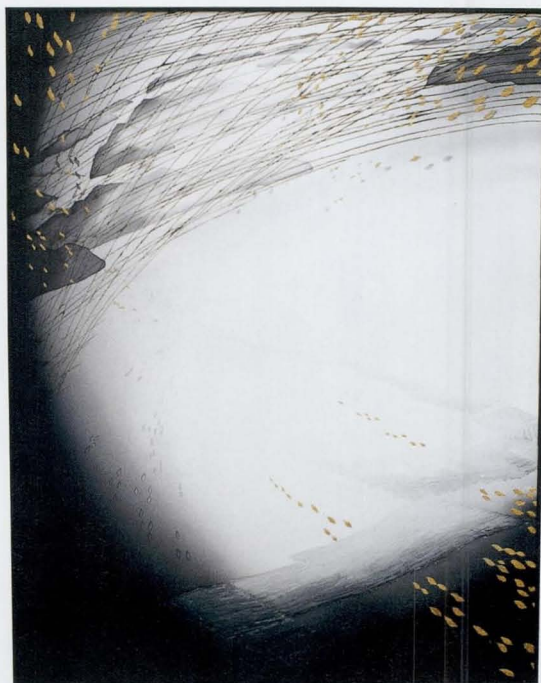
高橋 春杏



平面(書)

「瀬戸内・映」

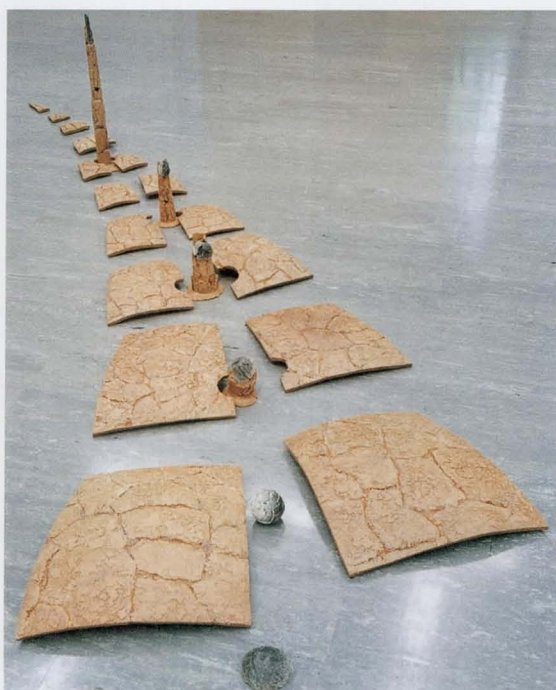
竹村 信子



平面(染色)

「還る」

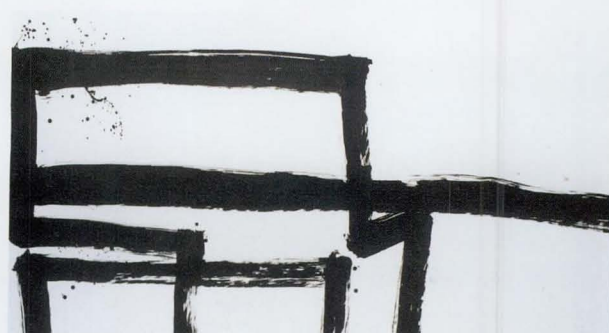
鳥谷部 圭子



立体

「KAMI」

夏目 暢子



平面(書)



「二人」  
新林 道子



平面(絵画)

「TIME SPACE」  
根石 裕子



平面(絵画)

「知られぬ謳歌」  
林田 真弓



平面(絵画)

「黄色の樹」  
藤恵 乾吾

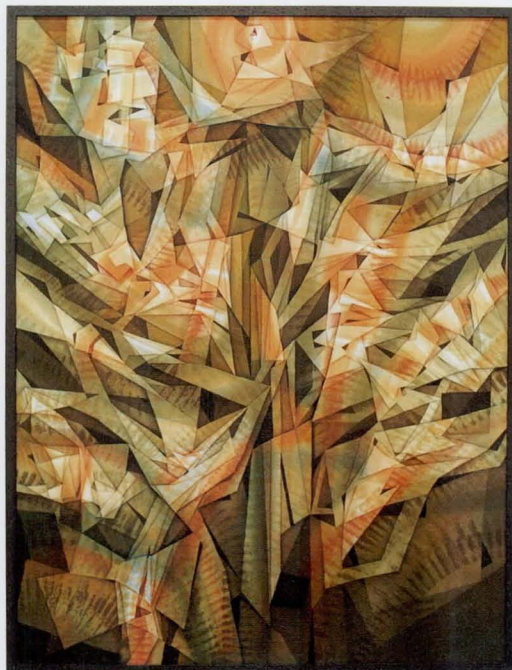


平面(写真)



「森の中から」

藤本 眞理子



平面(染色)

「夜のタンゴ」

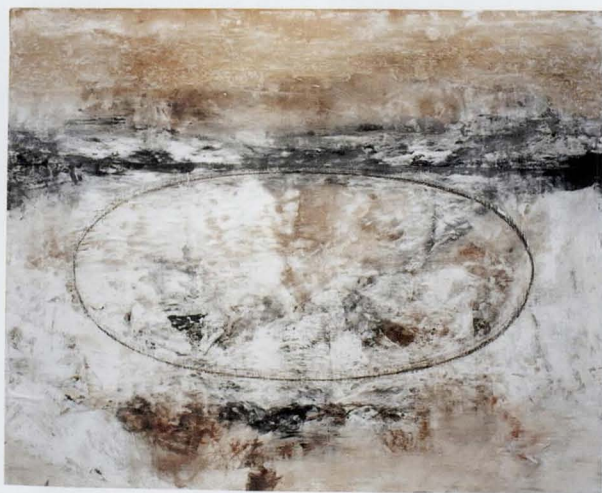
山下 新治



平面(絵画)

「風の試作」

吉井 章



平面(絵画)

「ヒロシマ スカイツタウン」

吉井 早智子



平面(絵画)



「慟哭」

吉野 誠



立体

「溶」

力善 正和



平面(絵画)